みやま市公民館　二川支館広報誌　第15号
ふたかわ
【発行元】二川支館　【発行日】令和8年10月1日

一歩ずつ前進 二川防災力

支館長　植田 英文

今年の夏も、大変な暑さが続きましたが、10月になり、そろそろ涼しい風も吹いてくると期待しています。皆様におかれましては、二川支館の活動に対しまして、ご理解とご協力を頂いていますことに心より感謝申し上げます。

さて、4月の令和8年度二川支館総会を経て、上半期の事業も順調に行うことが出来ております。5月にボウリング大会、6月には、区長会・社協・支館の三者が一体となった防災研修会を行いました。防災士や消防団員の皆様を含めた地域住民が「みんなで高めよう二川防災力」と題し、新しい防災気象情報の学習を行い、地域タイムラインの作成についてグループ討議を行いました。この防災研修会において、地域の防災力は、一歩ずつ確実に前進していると感じますし、また、この研修会は、毎年継続していかなければならないと思います。7月に「三池焼」窯元の中村秀昭さんを講師に招き陶芸教室を久し振りに行いました。8月に高田小学校二川地区の小学5・6年生を対象としたふたかわ寺子屋、9月に地域の77歳以上の皆様を対象とした敬老会を開催いたしました。

各事業に参加・ご協力頂いた皆様にお礼を申し上げます。今後とも、公民館活動に更なるご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和8年度 二川支館役員及び構成員

令和8年度の役員及びその構成員が総会で承認されました。以下、本年度支館役員及び構成員を紹介します。

| 役員 | | |

二川地区防災研修会

令和８年度二川地区防災研修会は、６月27日開催し、約90名の参加がありました。

二川地区防災研修会は、４年目を迎えております。

初年度は、二川支館の事業として取り組まれましたが、翌年度からは、二川地区　区長会、支館及び社協合同事業として開催いたしています。

《区長会長　高田　學》

今回の研修では、災害時に備えて、地域タイムライン作成を６行政区に分かれて作成いたしました。

地域タイムラインに沿って、防災訓練等を行い、災害時に自主防災会がどのような動きをするべきか、地域の重要な指針となります。

７月28日16時27分熊本地方を震源とする最大震度７の地震が多くの被害をもたらしています。みやま市も震度４の地震があり、家屋や道路が大きく揺れ、恐怖を感じました。

災害は、何時襲ってくるか分かりません。

今回の研修で作成した、地域ライフラインを今後、充実させ、災害に備えていきましょう。

さて、８月４日現在で、福岡県は18日連続の猛暑日を記録しています。

皆様には、熱中症に充分注意され猛暑を乗り越えていきましょう。

二川支館ボウリング大会

令和8年5月30日（土）恒例のボウリング大会を大牟田Jボールにて開催しました。

本年度は高田小学校にも、ボウリング大会申し込み案内を配布したので、総参加者数66名となり、昨年より24名も増えて熱戦が繰り広げられました。

〈参加者の声を紹介します。〉

- あまり点数はとれなかったけど、たのしくできてよかった。
- さいしょはGだったけど。とちゅうからあたるようになって、よかったです。来年もさんかしたいです。
- 楽しかった、20点も加算されたので、大変良いせいせきにみえた、ありがとうございます。
- 近所の方や顔知っている方など、日頃話せない方々とも、今日はボウリングのことで、話ができてすこし親しくなったなあと感じました。
- 近所の子どもたちも参加して、応援してもらったので、うれしくおもいました。

など、たくさん感謝のお言葉をいただき、ありがとうございました。

陶芸教室

7月12日（日）二川支館会議室にて、陶芸教室を開催しました。

今回は、熊本の南関町にある「三池焼」窯元中村秀昭先生を講師にお迎えしました。参加者は25名（内訳：男性10名、女性15名、内2名の小学生を含む）でした。

初めに講師の方から説明を受けた後、各自に配られた粘土を思い思いの皿やカップ等の作品を作っていきます。その後、作品に仕様する釉薬を10種類の中から選び、作品の完成を待つことになります。完成は2～3か月後です。

参加者からの感想として、「どんなのが焼きあがるのか楽しみです。」「（陶芸は）生まれて初めての経験でした。」「楽しい時間が過ごせました。」「先生の説明が解かりやすくて良かった。」「最後は粘土遊びになっていましたが、面白かった。」「粘土の量がもう少し欲しかった。」等がありました。

今後とも楽しく、多くの方が参加できる教室を開催していきたいと考えています。

夏休みの思い出づくり「ふたかわ寺子屋」開催

青少年育成会との共催による「ふたかわ寺子屋」を、８月20日・21日の２日間、まいピア高田で開催しました。小学校５・６年生を対象としたこの事業には、初日24名、２日目21名の児童が参加しました。

寺子屋では、夏休みの宿題に取り組む学習時間と調理実習を行いました。学習時間には、市の「夏休みお助け隊」の皆さんや主任児童委員の方々にご協力いただき、子どもたちは分からないところを教えてもらいながら、熱心に学習に取り組みました。

調理実習では、支館文化部の皆さんをはじめ、保護者やボランティアスタッフの方々の支援のもと、みんなで協力しながら楽しく調理を体験しました。

調理や学習を通して５・６年生同士の交流も深まり、終始和やかな雰囲気の中で、充実した２日間となりました。

《子供たちの感想》

参加した児童からは、「友達と一緒に宿題ができてよかった」「みんなと協力して楽しく調理できた」「照り焼きチキンがおいしかった」など、活動を楽しんだ声が多く聞かれました。

また、「料理の準備や野菜を切ったり、食器を洗ったりする大変さを知り、いつもご飯を作っている家族はすごいと思った。これからは自分にできることを手伝いたい」といった感想もあり、調理を通して家族への感謝や、家庭での実践につながる学びも得られたようです。

さらに、「５・６年生の仲が深まった」「普段あまり関わらない友達とも話すことができた」など、学年を越えた交流を喜ぶ声も多く聞かれました。「家でも作ってみたい」「寺子屋でやったことを家でもできるようにしたい」という声もあり、子どもたちにとって楽しく、学びの多い夏休みの思い出となりました。

開催にあたり、ご協力いただきました「夏休みお助け隊」の皆さん、主任児童委員、支館文化部、保護者、ボランティアスタッフの皆さまに、心より感謝申し上げます。

編集後記

『地域防災力向上への第一歩』

二川地区では行政区長の皆様のご尽力と市防災課のご支援により、今年度、全ての行政地区で防災組織が設立されました。これは二川地区の防災体制を強化していく上で、大変意義深い取り組みだと感じています。

しかし、防災組織がいざという時に力を発揮するためには、継続的に防災研修や訓練を重ね、地域の危険箇所や避難経路を再確認しながら、日頃から顔の見える関係づくりを進めていくことが大切であり、こうした備えの重要性は、地域の皆様も日頃から感じておられることと思います。

また、行政地区は広範囲にわたるため、より身近な隣組エリア単位での助け合い体制についても考えていく必要があるのではないでしょうか。大規模災害時には、近所同士の声掛けや安否確認が人命を守る大きな力となります。

「自分の命は自分で守る」「地域の命は地域で守る」という意識を持ちながら、一人ひとりが『自分にできること』を考え、地域の皆様と力を合わせながら、安全・安心な地域づくりを進めていければと思います。

今後とも、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

（H・O）